

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あやとり)

事業所番号	O671500288		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	平成 28年 9月 12日	開設年月日	平成 15年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内や近隣の祭り、催し物などやその方にとって馴染みの場所に出掛ける機会を多く持ち、畑での収穫やその収穫物での調理を通して季節を感じ、その方の生活スタイルに合った当たり前の暮らしが送られるように配慮しています。法人に5つのグループホームがある利点を活かし、お互いに訪問し合う事で、ご利用者や職員の交流を図り、閉鎖的にならないような工夫をしています。又、職員を対象とした所内研修や外部研修への参加を奨励するなど、最新の認知症介護について学びを深める機会を持ち、介護現場に活かして行くよう努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 10月 24日	評価結果決定日	平成 28年 11月 11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜、つつじ、あやめ、ゆり、ダリア見学と季節を通して皆で出かける機会も多く、多彩な行事に参加して地域交流をしている様子は、季刊誌「あのねのね」の写真からも見る事ができ、そこには満面の笑顔や真剣に避難訓練している姿があります。法人で続けているアンケート調査では、環境面や職員の対応など家族等の忌憚ない声を聞き、結果も公表してより良いサービスと運営に活かしています。また、法人全体で職員の育成に取り組みしており、働きやすく、やりがいをもって介護の仕事に従事できるよう、環境を整備して利用者と家族を支援しています。「あやとり」「くさぶえ」のユニット名にふさわしく、やさしく温かな雰囲気を感じとれる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でお一人おひとりが、その方らしい生活を続ける事を支える為、職員の思いを取りまとめ、事業所内に理念を掲示している。又、ネームプレートにも入れており、時折確認しながら各自意識付けを行っている。スタッフ会議などでも理念に添ったケアが出来ているか確認している。	2年前に自分達で作上げた理念とそれをもとに職員の関り方を具体化した「職員の思い」をケアの指針にして日々実践にむけて取り組んでいる。会議等で利用者の思いを確認しながら、安心安全な暮らしを支えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地元の個人宅へ雛人形飾りを見に伺った。地元婦人会や地域の方に来訪して頂き、歌や踊りを披露してもらったり、一緒に郷土料理を作ったりした。又、2ヶ月毎にお抹茶の会を開催して頂いている。外出の際はボランティアとして同行して頂いている。GHの芋煮会や忘年会には、推進委員の方や市職員にも毎年、参加頂いている。	運営推進会議で得た情報をもとに、地域や事業所の行事に参加し合っ、相互に理解を深める交流をしている。また、地域とは災害時相互強力協定も結んでおり、互いに支え合う協力関係が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議において、事例紹介や生活の様子を写真で見ながら説明を加えることで、認知症の理解や支援方法をお伝えしている。又、火災訓練にも参加して頂き、実際に認知症の方への声掛けと誘導方法を体験して頂いている。又、人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域の代表者・家族代表・有識者に委員となって頂き、その都度貴重な意見を頂いている。地域からの情報は外出の機会となり、市からの保険情報については、必要時家族へ伝達し、家族からの意見については、介護現場で活用するようにしており、双方向的な会議としている。	会議は利用者が地域とのつながりを実感し、職員も介護保険等の知識を得る機会として捉えている。警察や消防、法人の専門職員なども参加することがあり、その中での意見・情報交換等をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター出向中の職員を通じ、市や他事業所の情報を得たり、推進会議でも交流を図っている。制度上で解釈に疑義があれば市担当者へ問い合わせをしている。又、市職員から敬老芋煮会に参加頂き、家族や利用者の状況を見聞して頂いた。9月からは介護相談員の受け入れもしている。	利用者と職員が市担当者に運営推進会議の案内を持参するなど、互いに顔が見える関係が出来ている。市の新しい取り組みである介護相談員の訪問をテストケースとして受け入れ、普段の暮らしを見てもらいながら好評をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人職員を対象とした、虐待・身体拘束防止に向けた学習会に代表者が参加し、ユニット内で伝達講習を実施している。ユニット内には身体拘束の具体的な行為を明示し、職員の共有認識を図っている。玄関の鍵は掛けず利用者一人ひとりの行動傾向や思いを把握し、声掛けや見守りを行っている。	理念に沿ったケアをすることが利用者の安心安全な生活を守ることにつながり、職員同士助け合うチームプレイが不可欠としている。些細なことでも会議等で繰り返し話し合い、拘束しないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束をしないケアの実践」と同様、法人職員を対象とした学習会に参加し、理解を深めている。今年度は、改めて認知症の基礎についての学習会を行い、不適切ケアについても確認した。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小湊純一氏による研修資料、「認知症GHの権利擁護・虐待防止」を活用し読み合わせを行っている。GHだからこそ人として当たり前のケアができるよう、折に触れて確認している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り丁寧に説明している。特に利用料金や重度化、看取りについての対応、医療連携体制などについては詳しく話し、同意を得ている。入院に伴う退去についてや将来的な内容についても触れ、不安や疑問に答えられるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人では3年毎にアンケート調査を実施し、ご利用者やご家族の意見を頂いている。今年度が該当年となっている為、今後内容を精査し検討を加えたいと思っている。事業所玄関には「ご意見箱」を設置している。家族の来訪時や電話で頂いた意見などをスタッフ会議で検討し、運営に反映させている。	アンケート調査や面会時、電話での家族等の意見はできるだけ速やかに運営、サービスに反映させるように努めている。利用者の要望も日頃の会話の中や部屋でじっくり聴く機会から、叶えられるよう心がけている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議に出席し、事業所の決定事項を伝達し、職員の意見を聞く機会を設けている。必要時には部長会に反映する様にしている。いつでも法人への意見や要望を聞く準備がある事を職員へ伝え、話しやすい環境に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、人事考課システムを使用し少なくとも年2回考課を実施することで、職員個々の状況を把握している。安全衛生委員会による労働環境の把握や是正、産業カウンセラーによる面接制度の採用により、メンタルヘルスへの対応についても配慮している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から、法人内階層別研修制度の採用や国家資格取得に関する支援制度を立ち上げ職員が働きながら学べるよう工夫した。外部研修についても、社会福祉協議会主催の研修やGH協議会の交換実習、GH大会への参加等が出来るよう配慮している。ユニット内ではエルダー制度の活用も図っている。	法人全体で職員の育成に取り組んでおり、働きやすく、やりがいのある職場づくりに力を入れている。法人内・外の研修受講を奨励し、職員自身研修受講カードを管理して習得した項目を把握し、計画性をもって学べるようになっている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市主催によるセンター方式の研修会に参加する中で、演習などを通し他事業所職員との意見交換を行った。又、県GH協議会の定例会議や交換実習を通して自事業所の見直しや、視野の拡大に繋げている。	グループホーム連絡協議会や各種研修会に積極的に参加して、同業者と情報交換しながらサービスの質向上を図っている。交換実習では、他事業所の参考になったことや気づきを会議で報告して取り組みに活かしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問、ホーム内見学等で本人の心配事や不安な面を理解するよう工夫している。家族から入居前にセンター方式シートに記入して頂くことで、利用者の把握や信頼関係の構築に繋いでいけるようにしている。さらに自宅で使用していた馴染みの物を持参して頂き、安心出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族との関係性を踏まえ、要望や困っていることを把握することによって、信頼関係を築けるように努めている。来訪時や電話などでも話せる機会をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意向を確認した上で、どのような支援が必要なのかを検討し、支援に繋げている。又、その内容については関係する職員で情報共有している。法人の総合相談センターとも連携し、状態に応じた支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の能力が発揮出来るよう、負担にならない範囲で食事準備、洗濯物干しや畳み方、フロア内の掃除、畑から野菜収穫等の作業をして頂いている。一緒に行う事で昔ながらの知恵を教えて頂き、馴染みの関係と信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHから年4回の近況報告と家族来訪時及び電話連絡等で状態を報告し、家族と情報共有をしている。利用者にとっての最善な状況を一緒に考えながら共に本人を支えていく関係が築けている。行事に参加頂けるよう案内を差し上げている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に家族の協力を得ながら出掛け交流を図っている。馴染みの美容院に出かける方もいる。友人や近所の方の来訪もあり、居室でしばらく話し込んでいる。又、お正月やお盆には自宅へ帰り、家族や親戚と過ごされている方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しい時間を過ごす事が出来るように、食事やお茶会等は一つの空間に集まり、皆で顔を合わせて過ごしている。状況に応じて一人になれる時間を作ったり、気の合う方同士で過ごしたりと関係が円滑になるように配慮している。時にはトラブルになることもあるが、職員が間に入り、対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態の変化などで入院や他施設に移られた方には会いに行き本人の様子を伺ったり、家族から話しを聞き、必要な支援があれば都度、対応している。病院職員との連絡調整を図りながら、再入居への支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で利用者から話しを聞き、意向の把握に努めている。言葉で自分の思いを表現できない利用者については、表情やしぐさから思いを汲み取るように関心を寄せている。家族からも情報を頂くようにしている。	毎日の関わりの中での会話やエピソードを細やかに記録して、職員間の共有と把握に努めている。また、思いや意向を盛り込んだ企画として、利用者のやりたいことや行きたい所を叶える「特別な日」を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に記入して頂いたセンター方式シートから、又、事前訪問時に本人や家族から得た情報により把握している。入居後は、日々の生活の中から本人を知る(心理面を含めた暮らし)ことを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けや関わりを工夫し、利用者が持つ力を発揮出来るよう、支援している。一人ひとりの生活リズムを尊重し、思い思いに過ごして頂いている。体調の変化により食事、水分が進まない時はチェック表を用いて状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向に添って担当者が作成した原案を元に計画作成者が修正し、カンファレンスを開催、ケアプランの作成をしている。3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価や見直しを行っている。状態に変化があった時は都度、見直しをしている。都合の付く家族にはカンファレンスにも参加して頂き意見をもらっている。法人の専門職(管理栄養士・言語聴覚士等)にも意見をもらう事がある。	ケアプランは本人を知ることから始め、研修会で学んだことを活かして利用者の情報をあらゆる角度から収集している。その記録をもとにニーズを見極めて、その方らしいプランになるように作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画の実施状況等、エピソードを交え毎日記録に残している。出勤時は各自記録やミーティングノートに目を通し、情報収集を行っている。必要時には検討を加えている。介護計画が変更になった時は変更箇所が分かる様に明示したり、声掛けを行い、意識付けをしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内の環境整備を企業ボランティアの方々にしてもらっている(年2回)。地域の婦人ボランティアの方々と一緒に郷土料理を作ったり、外出に同行してもらい、交流を図っている。地域で行われるお祭り等の行事にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者・家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は日頃の様子を記入した受診連絡表を持参し、かかりつけ医には受診結果や指示を記入して頂いている。基本的には家族同行受診としているが、不可能な場合は職員が同行する支援も行っている。又、訪問診療を依頼しているケースもあり、複数の医療機関との関係を密に結んでいる。</p>	<p>利用前からのかかりつけ医を継続して家族等の協力を得ながら受診し、事業所で記入した受診連絡票を持参してもらい、情報を共有している。歯科も含めた訪問診療を利用している方もおり、それぞれの医療機関と連携を図っている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人の看護師と医療連携体制を取り、日頃の健康管理や医療面での相談、助言を行ってもらっている。状態に変化があった時は、その都度連絡し、必要時は、受診に繋げてもらっている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、利用者の支援に必要な情報を医療機関に提供し、定期的に職員が見舞うようにしている。必要時、家族と共に医療関係者と面談させて頂いている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時「重度化した場合の指針」について家族に説明し、同意書を頂いている。利用者の状態が重度化し、本人や家族が見取りを希望された場合、医師・看護師・介護職員が連携をとり、看取り指針を基に安心して穏やかな最期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。</p>	<p>利用者の状況変化に応じて家族等の意向を確認し、医師・看護師・職員も交えて話し合いを重ねて方針を統一して協力体制を整えている。環境を変えずにこれまでの暮らしを継続しながら、グループホームならではの支援で最期を迎えている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人職員と共に消防署に出向き、事故発生や救急時の対応について訓練を受けている。事業所内でも1～2ヶ月毎に昼夜想定で訓練を実施している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人主導で年2回の火災避難訓練を実施している。事業所独自でも1～2ヶ月毎に昼夜を想定した訓練をしており、地元2地区との災害協定も結び、協力体制を築いている。又、運営推進会議の際、委員の方に利用者の誘導を実践体験して頂いた。防災マニュアル(火災・震災・水害)の整備はあるものの、震災・水害対策については、より具体的なマニュアルと実践訓練に向けての資料作りを行っている途中である。	隣接する法人施設との合同で避難訓練を実施し、事業所単独でも定期的に行い、運営推進会議を利用した訓練に委員の方に参加してもらっている。備蓄リストの作成や2地区との災害時相互協力協定の締結など災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の誇りやプライバシーを傷つけないように、さりげない言葉がけを心がけている。個人情報保護に関しては法人内研修を実施し、理解を深めている。今年度は10月4日に予定されている。	職員は声かけや声のトーンに留意し、利用者のプライバシーを損ねないような対応を心がけている。家事などの得意分野を引き出すことで自然に日課となり、利用者の意欲に繋がり達成感が表情からも伺える。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では利用者が主体となり、本人の思いや願いを表現出来るように傾聴している。暮らしの中の些細なことでも自分で選択できるように働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、特に時間を区切らず利用者の思いやペース、その日の希望を尊重している。体調に配慮しながら、個別性のある支援を行っている。利用者の生きがいや楽しみを情報共有しながら支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装は本人が選んでいる。選べない方は職員と一緒に見ながら選んでいる。床屋の希望も本人の意思に添って予約をしている。困難な方には家族や職員の判断で定期的に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜や季節に合った旬の食材を使用し、職員と一緒に調理や盛り付け、片付けを行っている。希望や好みを伺い、苦手な物は代替品を提供している。誕生日には大好きな物を取り入れている。職員も同じテーブルで食事をしている。職員は一人ひとりの嗜好を理解している。	法人の管理栄養士のアドバイスを受け担当職員が考えた献立を、マイ食器で食事をしている。利用者の手伝い参加があり、手作りおやつ・誕生日のリクエストメニュー・外食・行事食などを取り入れ、職員と一緒に楽しんでいる。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に献立を確認してもらい、指導や助言を受けている。好みに合った食事の提供を心掛け、体調や摂取状況に応じて都度、食形態を工夫し、栄養バランスの確保に努めている。状態により法人STに嚥下状態を見てもらい、アドバイスを受けている。栄養、水分摂取状況の確認が必要な方にはチェック表を用いて状態把握に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じて口腔ケアの声掛けや必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔を心掛けている。週2回、義歯洗浄剤を用いて洗浄もしている。看取りの方には口腔内の拭き取りを行い、乾燥防止や清潔保持に務めている。口腔ケアの重要性については、肺炎予防の観点から重要であることの認識を持っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、言葉で尿意を伝えられない利用者にもトイレ誘導ができるよう支援している。尿道カテーテル挿入中の方には1日に1回トイレに座って頂き排便を促している。排泄介助の際は自尊心を傷つけないような配慮をしている。	排泄パターン把握のためチェック表を活用して、一人ひとりに合わせたトイレ誘導をしている。おむつ使用の方でも尿意を大切に、失敗時にはさりげない対応を心がけている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の多いものや乳製品等を取り入れたり、暮らしの中にラジオ体操を組み込む等の工夫をしており、自然排便となるように心がけている。又、トイレ内に椅子を用意し、腹圧をかけやすく自然な排便体勢が取られるようにしている。下剤を使用している場合は、毎日の便性を確認し、過剰投与とにならないよう管理している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調やその日の状態に応じて入浴が出来るよう支援している。入浴を拒む場合は利用者の意思を尊重し、時間を変えて誘う等の対応をしている。入浴の時間が心身の安らぎとなるよう職員自身も気持ちに余裕を持って臨んでいる。入浴が出来ない場合には清拭を実施している。	曜日・時間帯を決めずに体調や希望に合わせて入浴出来るように支援し、入浴拒否の方には無理強いせず、身体状況によりシャワー浴・足浴・清拭などを取り入れている。利用者と1対1になり会話も弾み、職員も一緒にゆったりとした時間を過ごしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人なりの生活リズムをくずさない事を基本に、日中の活動を取り入れ、安心して穏やかな日常が送られるよう配慮している(休息と活動のバランス)。眠れない方には側で寄り添いながら温かい飲み物を提供し、おしゃべりをする等の支援をしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果や副作用については、お薬の説明書で確認することを習慣づけている。処方の変更された場合は、受診連絡表からの医師の指示事項や家族からの情報により確認している。服用後の状態変化について観察し、必要があれば医療連携看護師や医師と連携を図っている。与薬時には飲み込むまで確認している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話の中から情報を収集し、今まで経験してきたことが十分活かせる場面を提供出来るように心掛けている。一人ひとりの興味のあること、出来ること、楽しみ等をプランに取り入れることで、自分らしく居られるように支援している。又、お願いした作業が終えた時には、感謝の言葉を添えている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出し、食事や買い物等をされる方がいる。馴染みの理容院で散髪される方もいる。又、希望に添って散歩やドライブに出掛け、気分転換を図っている。遠出が無理な方は、天気の良い日は外に出て気分転換を図っている。ボランティアの協力を得て、地域の行事や、季節の花を鑑賞するバスハイクを企画する等の外出支援を行っている。	季節毎の花の鑑賞は毎年恒例となり、時季が近づくと利用者からリクエストが出るほど楽しみにしており、ボランティアの協力を得てバスハイキングに出かけている。地域行事への参加や近隣の散歩など気分転換につながるよう外出支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が困難な方には、家族や本人の希望によりGHで管理している。希望に応じて使用できるように支援している。支払いの際も本人に行ってもらっている。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じていつでも電話が出来るようにしている。携帯電話を使用している方には、充電等の支援をしている。遠方の家族に手紙を出す方もいる。毎年、家族や友人に年賀状を出している。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>和室にある仏壇に毎日手を合わせる方がいる。共有スペースに隣接する調理場からは、暮らしに欠かせない料理の匂いや雰囲気が感じられ、安らぎの場所となっている。フロアからは中庭の花や畑の野菜が見え、季節を感じられるようにしている。定期的に温度・湿度をチェックすることで、快適に過ごせるようにしている。職員も環境の一部であることを認識し、音や言動に配慮している。利用者一人ひとりの価値観を大切にしながら居心地の良い空間づくりに努めている。</p>	<p>随所にソファを置き、和室で洗濯物をたたむなど利用者は好きな所で思い思いに過ごしている。広々としたホールは季節感や生活環境・テーブルの配置などに配慮しながら、一人ひとりが安心して居心地良く過ごせるように工夫している。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関やフロアにソファを置き、一人でゆったり過ごしたり、気の合う方と会話出来るようにし、居心地良い居場所作りを工夫している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況		実践状況		
					次のステップに向けて期待したい内容		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物や家具、日用品、思い出の物などを身の回りに置き、落ち着ける居室作りをしている。亡くなった夫の写真を置き、毎日お茶と水を供える方もいる。ベットは個々の状態に配慮した配置にし、居心地良く過ごして頂けるようにしている。		居室入り口には氏名と共に避難時対応(徒歩・車いすなど)が表示しており、災害に備えている。畳敷き・フローリング・ベッドの位置など身体機能に合わせて落ち着いて過ごせるよう環境作りを大切にしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かり易いように名前や案内を明示している。ホーム内は歩行の妨げにならないよう、安全に配慮し、自由に歩行が出来るようにしている。和室前には物干しを設置し、干す、畳む、仕分ける等の作業が順序良く出来るようにしている。		/		/